

---

---

# 教育総合センター だより

---

---

NO. 102

平成18.12.1

## 卒業生群像



尼崎市立園田中学校  
校長 前橋 瑩一

「先生！」突然頭の上から声を掛けられた。見上げると、ダンプカーの運転席に教え子の顔が微笑んでいる。「先生、オレ頑張ってるんで。高校行かれへんでも頑張ってるヤツもおるいうて、後輩に言うとして」の言葉を残してダンプは走り去っていった。

在校中に両親が離婚、「オレが母ちゃん守るんや」と言っていた少年との再会の一瞬でした。30有余年、何人の生徒を送り出してきたことだろう。彼らとの出会いのなかで、私自身が成長し教師として育ててもらってきたように思う。

一つは、教師の一言の怖さについてです。

「先生のあの時の言葉で、3年間北陽高の野球部で頑張れたんです」と同窓会で言われ、なんのことも思い出せなかった。彼の話では野球部の3年生だったある日、「バレー部に入れて下さい」と職員室に行った。私からは「野球を続ける」と何度も説得されたが、どうしてもということやと許可された。が翌朝、「兄貴に叱られたので、野球部に戻りたい」と言いに行った。その瞬間、「バレー部を、なめとんか！」と怒鳴られ、二度と野球をやめないことを条件に復帰を認めてもら

ったことがあったということでした。

教師の一言が、うまく相手に伝わった時には、教師の耳に入るが、逆の場合も多々あるのではと反省することしきりでした。

野球と言え、教え子の一人に、元ヤクルトスワローズの池山隆寛選手がいます。本人やお母さんから「先生のお陰です」という言葉を何回か聞きました。なんでやる、野球を教えたわけでもないのにと思っていたら、ある日、「進路指導の時の先生の『併願なんか考えるな。公立一本で頑張れ』という一言が励みになり、その後の支えになったのです」と教えられました。

彼からは、子どもの持つ可能性は、私たちでは計り知れないものだということやを教えられた気がしています。

塚口駅で偶然出会った教え子は、「先生を探しててん。お母さんと、探偵ナイトスクープに頼もうかと相談しててん」と言います。この子からは、何を学ぶことでしょうか。

数えきれない卒業生の皆さんに感謝しつつ後数ヶ月で、私も卒業します。

ありがとうございました。

# 人権教育研修講座を受講して

子ども達を取り巻く社会環境は、年々複雑になり、価値観も多様化しています。特に、低年齢化しつつある「非行」「いじめ」の問題については、たびたびマスコミにも報道されるくらい痛ましい事件につながり心を痛めております。

そのような折、8月29日に人権教育研修講座が開催され、園田学園女子大学の野口克海先生のお話を聞く機会を得ることができました。先生は「子どもの命と人権を大切にするために」というテーマで講演されました。

野口先生は、かつて堺市の小学校でO157の食中毒の問題が生じた時に陣頭指揮を執られた方で、体全体からも大変パワフルな雰囲気漂い、危機管理をしっかりされた体験に基づく自信に溢れたお話の内容でした。

人権教育は、「特別なものでなく当たり前の教育である」と話され、子どもが悲しい思いをしたり、見捨てられたりされずに子ども一人ひとりが大切にされるという教育であると話されました。これらの事をふまえ日々の実践で心がけるべき教えを頂いた事を挙げさせていただきます。

## 1. 家庭訪問の大切さ

「教育は、きょう(今日)いく(行く)」この言葉通り問題が起こってから何日か経過しての言い訳は、問題を大きくするばかりである。事後処理は迅速に行い、当日行ってきっちり説明することで保護者へ担任の気持ちが伝わり手

を握り合うことができる。そして、じっくりと指導することが大切である。

## 2. 教育はチームで行う

問題が起こった時には一人で解決しようとしなくて、周りの先生方に相談することが大切である。この事は本校でも実践しているところであり学年はもとより生徒指導の担当者も一緒に連携して対応することで解決の糸口を見つけれることがわかりました。

## 3. 子どもの変化

子どもたちは友だちと群れて遊ぶことが少なく孤立化している。一人ぼっちになっている子はいないか、おとなしい子、勉強できる子等安心して見過ごしていないか。子どもたちのつながりが希薄になっている今、子ども同士をつなげる役割を担うのが教師の仕事である。

野口先生の講演を聴いて先生自身が、教師である前に一人の人間として「子どもと一緒にがんばろう」という姿勢を貫かれていると感じました。

「人権教育は頭で学ぶものでなく本物の生き方をしている人との出会いから学ぶ」という言葉が印象に残りました。また、どんなにやんちゃな子どもでも愛情を注ぐことで、子どもは変わっていくことを。そして何よりも子ども本来の素晴らしさに気づかされました。

(尼崎市立武庫南小学校教諭 西本 雅子)

## 子どもたちに豊かな感性を...

「人間の豊かさ」、日本、7位に浮上  
先日の朝日新聞にこんな記事が掲載されて  
いました。経済力・教育・健康などを  
総合した指数で日本は177ヶ国中で7位  
に浮上したということです。

パソコン、携帯電話、テレビゲームと  
確かに日本は物質的に豊かな国なのでし  
ょう。しかし、その豊かさの中で人間関  
係の希薄さはますます進んでいるように  
思います。新聞紙面やテレビニュースで  
は、わが子への虐待、青少年の凶悪犯罪  
中高生の自殺など信じがたい報道が後を  
絶ちません。

このような社会情勢の中で、人権教育  
の果たす役割はますます大きくなってい  
ます。子どもたち一人ひとりに人間らし  
い豊かな感性を育てていくことが求めら  
れているのです。

子どもたちの感性を育てるという意味  
で、幼児期の子どもたちにとって、ペー  
プサート・紙芝居・絵本の読み聞かせな  
どは効果的であると言われてています。こ  
の年代の子どもたちは容易に物語の世界  
に入り込み、動植物や登場人物になりき  
ることができます。その中で相手の気持  
ちを考えたり、命について考えたりする  
ことができるのです。また、子どもたち  
は、友だちとのトラブルやけんかを通し  
て、我慢することを覚えたり、自分と友  
だちの考えの違いや他人の優しさに気づ  
いたりします。

学校生活では様々な活動の中で「やっ  
た、わかった、できた!」という達成感  
や成就感、「やればできるんだ」という

自己有能感等を味わわせることや、先生  
や友達から認められることによって、自  
尊感情が高まっていきます。

また、教師は、子どもたちの感性や想  
像力に働きかける体験活動の場を提供し  
自らも一人の人間として、子どもたちと  
共に学び、その素晴らしさや感動を分か  
ち合うことが大切なのです。

物語との出会いや仲間との交流、動植  
物・自然とのふれあいの中で子どもたち  
は感性を磨き、人権感覚を身に付けてい  
きます。

今年の3月に文部科学省から発表され  
た「人権教育の指導方法等の在り方につ  
いて」(第二次とりまとめ)によると、  
人権教育を進めるに当たっては、**【自分  
の大切さと共に他の人の大切さを認める  
こと】**について知的理解にとどまらず、  
様々な場面で具体的な態度や行動のとれ  
る児童生徒を育成することが大切である  
とされています。

特別な時間に特別なことをするのが人  
権教育ではありません。学校、家庭、地  
域社会での豊かな体験と、多くの人々  
とのふれあい、あたたかい愛情につつま  
れて育っていくことが重要なのです。自  
ら一人の人間として大切にされていると  
いう実感が持てた時に、初めて自分や他  
人を尊重しようとする感覚が芽生えてく  
るものです。やさしさの中で成長した子  
どもたちは、必ず、他の人の大切さも認  
められる大人になっていくものと思いま  
す。

(学校教育課指導主事 川見 孝男)

## 教育総合センター 教育情報コーナー 資料紹介

悲しい「いじめ」事件に心いたみます。今一度子どもたちを、しっかり見つめ直していくときです。いじめの発生を抑えるには、よい授業・よい仲間づくりにつぎのではありませんか。情報コーナーの本もお役立て下さい。

### <いじめ>に関する本

題 名	著(編)者	出版社
いじめ指導マニュアル	高階 玲治 編	教育開発研究所
いじめ指導の手引き	松原 達哉 編	教育開発研究所
あなたの学校のいじめ解消にむけて	ソニア・シャープ、ピーター・K・スミス 編	東洋館出版
いじめ～教室の病	森田 洋司 編	金子出版
日本のいじめ～予防・対応に生かすデータ集	森田 洋司 編	金子出版
実践いじめ授業～主要「判決文」を徹底活用	梅野 正信・采女 博文 編	エイデル研究所
今いじめられている君へ	松原 達哉 編	教育開発研究所
いまずぐできるいじめ対策	月刊生徒指導	学事出版
いじめQ&A～子どもの人権を守ろう	法務省人権研究会 編	ぎょうせい
いじめ問題から学校を変える	文部省いじめ問題研究会 編	第一法規出版
いじめない自分づくり	福田 博行 編	学陽書房

### <学級づくり>に活かせる本

題 名	著(編)者	出版社
小学校若手教師の学級経営テキスト	寺崎 千秋 編	明治図書
中学校若手教師の学級経営テキスト	渡部 邦雄 編	明治図書
思春期の子どもと向き合うために	文部科学省 編	ぎょうせい
学力保障と学習集団づくり 小学校低学年	豊田ひさき 編	明治図書
学力保障と学習集団づくり 小学校中学年	豊田ひさき 編	明治図書
学力保障と学習集団づくり 小学校高学年	豊田ひさき 編	明治図書
命を大切にできる教育をどう進めるか	有村 春久 編	教育開発研究所
ストレスに負けない心を育てる学校の取り組み	伊藤美奈子 編	教育開発研究所
学級崩壊・授業困難はこうして乗り越える	金子 保 編	小学館
あなたの学校こうしてリフレッシュ	椎名 薫 編	学事出版
子どものやる気を引き出すできる教師の魔法の言葉	諸富 祥彦 編	教育開発研究所

この他にも、本・雑誌等があります。詳しくは係までおたずねください。

## 視聴覚センター ビデオ教材紹介

### 貸出ベスト5

	題 名	時間	対 象
1	ワオくんのはね	17分	幼・小対象
2	負けるな!千太 さよならいじめ虫	24分	小・中対象
3	二匹の猫と元気な家族	25分	小・中対象
4	わたしだけが	15分	小・中・一般対象
5	勇気ある選択 許さないじめ	25分	中・高・一般対象

<b>開館時間のご案内</b> 平日 午前9時～午後9時 (ただし、教育相談および視聴覚ライブラリーは午後5時15分までとします。) なお、次の日は取り扱いたしません。【土曜日・日曜日・祝日・年末年始】	<b>発行</b> 尼崎市立教育総合センター 尼崎市三反田町1丁目1-1(06-6423-3400) <b>発行者</b> 神田 光 <b>題 字</b> 尼崎市教育委員 岡本 元興
--	--